



「βιβλιοθήκη」はギリシャ語で図書館のことです。

第 46 号

2025年2月26日発行

北陸学院中学校・高等学校

図 書 委 員 会

〒920-8563 金沢市飛梅町1-10
TEL (076) 221-1944

印刷所 HAYASHI株式会社

ミッション祭

9月4日(水)

企画内容

- 「謎解き」
- 「POP展示」
- 「しおり作り」体験

私はミッション祭で行った図書館の企画を通して、「何かを企画し、体験をする人に喜んで貰うためにはどうすれば良いのか、企画を考えることは改めて難しいな」と実感しました。私自身ミッション祭という大きなイベントの企画に、一から携われることは初めてでしたので、何かと手探りの状態で、準備期間中は大きな不安がありました。しかし、当日を迎えてみると、たくさんの方が来てくれました。私たちが考案した「謎解き」を楽しんで解いてくれたので、本当に嬉しかったです。そして、準備期間から当日まで様々なことに協力をしてくれた図書委員会のメンバー、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。今回のイベントで色々な人と協力し、一から企画して進める物事の大切さを学ぶことが出来ました。経験したことを糧として、これからの自分に繋がっていきたいと思います。

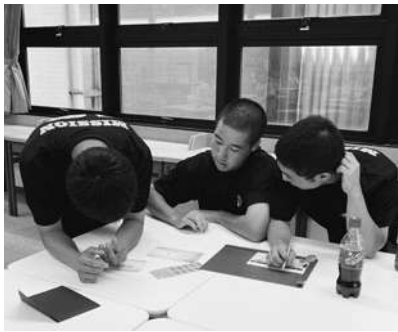
(209H 赤井 彩華)

今年度のミッション祭において図書委員会は、「しおり作り」と「謎解き」の体験を行いました。台風など

の影響によりミッション祭の開催日

がずれ、通常の開催日より生徒の家族や外部からの人が少ないと想像していたのですが、生徒や生徒の家族が多く参加し、楽しんでいました。「しおり作り」では、中学生、高校生たくさんの方が来てくださり、それぞれが自分好みのデザインや難易度を選び、しおりを作りました。これをきっかけに、「本にたくさん触れ、新たな知見を増やしてほしい」と思いました。「謎解き」では、考えながら謎を解いて行っており、楽しそうにしていました。両活動がとても良いものとなったと思います。ありがとうございました。

(309H 北方 修汰)



謎解き難しい…これであってる？

図書館報告

〈テーマによる展示〉

図書館内では、毎月テーマを変えて、本の展示を行っています。

4月 図書館へようこそ(絵本)

5月 レポート・文章の書き方

6月 日本の歴史・平安時代

7・8月 「校内読書感想文

コンクール」課題図書

9月 北陸学院関連(創立記念)

10月 47都道府県特集

11月 いわさきひろ特集

12月 クリスマス絵本

1月 「はたらく細胞」特集

2月 谷川俊太郎特集

〈先生おすすめの本〉

先生による「おすすめの本」を生

徒に配信、図書館展示しました。

6月 伊藤 妙 (国語科)

9月 高柳 乃輔 (社会科)

11月 長谷川 美穂 (数学科)

〈読書スタンプラリー〉

10月15日(火)～11月7日(木)

秋の読書週間にあわせてスタンプラリーを実施しています。今年もスタンプを集めた利用者のべ48名には、書店提供の豪華景品を渡ししました。(司書 大音師 華子)

図書館利用統計

4～12月

〈個人貸出BEST5〉

★高校生

1位 107H 石野 友美子 124冊

2位 303H 前田 航佑 40冊

3位 306H 加瀬 遙奏 35冊

4位 101H 黒津 怜志 32冊

5位 106H 森戸 心咲 26冊

★中学生

1位 1年 神野 旅人 171冊

2位 1年 中村 楓太 120冊

3位 1年 笠原 由衣 87冊

4位 1年 荒地 美柚 80冊

5位 1年 平井 由乃 47冊

私は今年図書委員長になり、たくさんの方の力を借りながら、様々な活動を行ってきました。学校に入った当初は、図書委員長になろうと思っていませんでした。私は人前に出て何かをすることを、これまで経験したことがありませんでした。そのため、図書委員長になることに自信がなかったのですが、担任の先生からの勧めもあり、図書委員長になることを決めました。図書委員長になった当初は何をするにも初めてで、あたふたしていたのを覚えています。そんな中初めての仕事は、委員会目標を考えることでした。私は図書委員会を通して、どのような活動を行っていきたいかを考えることにしました。そこで思いついたのが「Spread with books」でした。これは「本と共に広がる」という意味があり、今年度の委員会目標でもあります。この言葉には「皆さんが本を読むことだけではなく本の可能性を広げ、それと同時に自分自身に知識の幅を広げることができるように」という思いを込めました。これは私が一年生の時に参加したPOP講座を思い出して考えたものです。私はこれまで、本を読むということだけに焦点を当てて、図書館に行っていました。しかしPOP講座に参加して、POPは本を読むだけでなく、その本の魅力を伝え



私は今年度、たくさんの方の活動をしてきました。例えば、皆さんが気軽に本に触れてもらうために各クラスで学級文庫の設置を行いました。おすすめの本を紹介したり、本に関する面白い話や、図書館で行っているイベントについてまとめたりする『Pick up!!』の発信を行ってきました。



『Pick up!!』

〈貸出作品BEST3〉

1位 あの花が咲く丘で、君とまた

2位 わたしの幸せな結婚 夏衛

3位 鬼滅の刃ノバライズ 顎木 あくみ

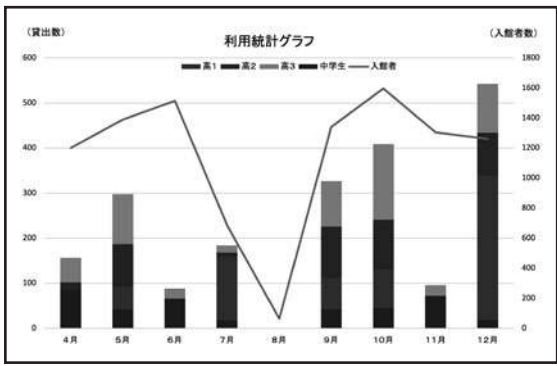
〈貸出作家BEST3〉

1位 東野 圭吾

2位 顎木 あくみ

3位 吾峠 呼世晴

貸出利用冊数	2022年度	2023年度	2024年度
高校1年	1,525	870	995
高校2年	351	445	489
高校3年	341	532	619
中学1年	329	170	839
中学2年	262	150	204
中学3年	166	108	122
教職員等	496	533	434
合計	3,470	2,808	3,702



その中でも、一年間で活動した中で私が最も重要に、大切にした活動は私が成長することができたきっかけである『POP講座』です。なぜなら、POP講座はPOPを書く時に工夫することなどを講師の方に教えていただき、実際に自分たちの選んだおすすめの本についてPOPを書くというものです。POPは本を紹介するときにとっても重要になるアイテムです。一見、本を読むことと関係ないように見えるアイテムが本にとつてとても大事なものになるなど、ほんの少し違う見方をするだけで、新たな発見があり、委員会目標に近づくための第一歩になると思いました。ミッション祭では去年に引き続き「しおり作り」を行いました。他には、新しく本を合わせた「謎解き」を行いました。「謎解き」は新たな試みであり、一から自分たちで考えなければいけないため、夏休み中に集まって準備を行いました。ミッション祭では、皆さんが自分の好きなようにしおりを作ったり、謎解きを楽しむと頑張ったかいがあり、とてもうれしくなりました。そして、いつもとは少し雰囲気の違い、図書館を見る目ができて、とても新鮮な気持ちになりました。今年度の図書委員会ではたくさんの方の協力のおかげで、これまで活動することができました。また、図書委員長という役職は、私にとつても成長することができた経験でした。初めは何もわからず

先生から

「Spread with books」を岡崎図書委員長が今年度のスローガンに掲げました。本と共に様々な知識・見識を広めていき、自分の可能性も広げていこう！とスタートをしました。今年度も学級文庫の継続や、「Pick up!!」で図書・図書館情報を皆さんにお伝えしてきました。文化祭での葉づくりなど様々な企画に挑戦する図書委員会を陰ながらサポートさせてもらいました。私がみなさんに伝えたい事は、「もっと詳しく、もっと具体的に知りたい。」あなたの好奇心を満たす役目を果たすのは本しかありません。今年度も司書の先生、図書委員長・副委員長が工夫を凝らして各分野、ジャンルに分けられた本を皆さんにお伝えしてきました。一人でも多くの人が図書館に訪れることを楽しみにしています。

(高校図書委員会担当 渡辺 大輔)

編集後記

今年も無事に46号の図書館報を発行することができました。図書館報を読んでくださってありがとうございます。これからも本を楽しんでいきます。これからも本を楽しんでいきます。

高校図書委員会

委員長

副委員長

副委員長

副委員長

岡崎 咲那

中川 桃音

平井 寧々



図書委員会 始動!!

英語書籍購入

高校図書委員会では、昨年に引き続き英語書籍を購入しました。

『Night on the Milky Way Railroad』

Kenji Miyazawa

銀河鉄道の夜 宮沢 賢治

『Lonely Castle in the Mirror』

Mizuki Tsujimura

かがみの孤城 辻村 深月

『My Happy Marriage, Vol.1』

Akumi Arisugi

わたしの幸せな結婚 顎木あくみ

全国高等学校ビブリオバトル
2024石川県大会

11月4日(月・祝) 学びの杜のいちカレード

優勝
108H 俵 柊恋 『空想科学読本1』

準優勝
107H 中西 穂野香
『生物はウイルスが進化させた』

本校では、高校1年生の理科の授業の中で、理化学研究所の事業「科学道100冊」を利用したビブリオバトルを軸として、「サイエンスQuest!」という探究学習を行っています。

毎年、各クラスの入賞者をビブリオバトル石川県大会に推薦し、見事、優勝、準優勝を勝ち取ったという快挙を成し遂げました。優勝した俵さんは『空想科学読本1』（柳田理科雄著、KADOKAWA）を紹介。作品は2022年に刷新されたもので、人気アニメのキャラクターなどを科学的観点から解説する内容。「アニメの場面や技を専門的な知識を交えながらわかりやすく解説し、苦手な人でも科学の面白さに引き込まれる」と熱弁しました。準優勝した中西さんは、『生物はウイルスが進化させた』（武村政春著、講談社）を紹介。「私たちが知っているウイルスの概念を180度変えるような一冊である」と観客にうったえかけました。



俵 柊恋さん 中西 穂野香さん

(図書館)

石川県合同読書会

7月31日(水)・8月1日(木)

私は合同読書会に参加して、登場人物の心情を考察するという本の新たな楽しみ方を知ることができました。国語の授業では心情を答える問題が多いですが、これは勉強だという先入観が強かったため楽しいどころか苦に感じていました。しかし、合同読書会では答えがない分、みんなで自由に意見を出し合

心情を考察できました。自分達が納得できた意見を答えるにできるため、達成感があり楽しかったです。本を読む楽しみ方が増えたおかげで、一冊の本を何度も読み返すことが出来るようになりました。以前までは読み返す意味が分からなかったのですが、読む度にまた違った視点で楽しめるようになりました。



初めての合同読書会

選書会

9月13日(金)

うつのみや金沢香林坊店に行って、選書会を実施しました。当日は図書委員有志が、本校図書館の蔵書にしたい本を選びました。

私は高校生図書委員の選書会で、自分が興味のある本、今話題の本やよく耳にする作家の本など、多くの本を選びました。選書会に参加して、特に自分が手に取ったことが

購入図書リスト

『このプリン、いま食べるか?』 柿内 尚文
『ガマンするか?』 山野 貴彦
『聖書の解剖図鑑』 齊藤 彩
『母という呪縛 娘という牢獄』 彩
『BTS学への招待』 北九州市立大学李東俊ゼミナール
『ハンドレットノート』 風森 章羽
『ともぐい』 河崎 秋子
『ヒカリノオト』 河邊 徹
『星が人を愛すことなかれ』 斜線堂有紀

『邪行のビビウ』 東山 彰良
『ジンが願いをかなえてくれない』 行成 薫
『いとエモし。』 koto
『この世界からは出ていくけれど』 キム・チョヨプ
『すべての人にいい人である必要なんてない』 キム・ユウン
『すべての瞬間が君だった』 ハ・テワン
『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』 ガイ・ドイッチャー
『百物語先生ノ夢怪談』 編乃肌
『小説きみの色』 佐野 晶
『ある閑さされた雪の山荘で』 東野 圭吾
『春期限定いちごタルト事件』 米澤 穂信
『夏期限定トロピカルパフェ事件』 以上2冊
『閲覧注意』 ネットの怖い話 クリーピーバスタ
『ミスター・クリーピーバスタ』



どれにしよう?迷うな...

選書会で購入した本は、図書館に展示しています。ぜひ本を借りに図書館へ来てください。生徒目線の選書の本は大変人気があります。借りたい本が図書館にない場合は、本を予約してください。(図書館)

ジャンルでしか、本を選んでませんでした。しかしクラス図書を選ぶようになっていろいろなジャンルを手取るようになりました。そして学校行事に関連した本や、読書感想文の課題図書、自分たちの入試問題に出てきた本など、クラスの皆が「おもしろそう」と思えるような本を選んできました。選ぶのは毎回楽しく、実際に手に取って読んでくれる人もいて嬉しかったです。やりがいも感じました。これからも工夫しながらクラス図書を選んでいきたいです。

今年の五月に、学習マンガが入りました。ぼくが読んだ中では『学習マンガ日本史』が一番おもしろかったです。各時代をマンガで学べて分かりやすいです。他にも、『応天の門』や『数学ゴールデン』などが人気です。中学1年生がたくさん借りたので、さらに世界史や科学のマンガも入りました。ぜひ、学習マンガを読んでみてください。

学習マンガの充実

今年の五月に、学習マンガが入りました。ぼくが読んだ中では『学習マンガ日本史』が一番おもしろかったです。各時代をマンガで学べて分かりやすいです。他にも、『応天の門』や『数学ゴールデン』などが人気です。中学1年生がたくさん借りたので、さらに世界史や科学のマンガも入りました。ぜひ、学習マンガを読んでみてください。

校内読書感想文コンクール

☆優秀賞

図書『マトウジュリ・マトウジュリ』 中学3年 鹿島 玲良
図書『きみの話を聞かせてくれよ』 中学1年 林 こと

以上の2点は左記の最優秀賞作品と併せ、本校代表として金沢市読書感想文コンクールに選出されました。

2024年度 校内読書感想文
コンクール

最優秀賞

金沢市中学校読書感想文コンクール
課題図書賞

最優秀賞

石川県読書感想文コンクール
中学校課題図書賞

優秀賞

図書『ノックドウライオウ
―靴ノ往来堂― 佐藤まどか 著

題名「手仕事で紡ぐ
未来への道」

中学3年 平本くらら

大人になることへの不安が、日々私の心を重くしています。成長して新たな自分を見つけることの喜びよりも、未知の未来への恐れが勝り始めているのです。幼い頃から絵を描くことが好きで、時間を作っては絵を描いてきました。両親も私の興味を理解し、絵画教室に通わせてたり、美大の附属高校の見学会に通わせたりと、さまざまな機会を与えてくれました。しかし、絵画を進路選択に結び付けるのは、なにかしっくりこないことでした。好きなことと、自分が大人になることが、どうして

もつながらなかったのです。この悩みをさらに深めたのは、生成AIの登場でした。生成AIはプロのようなイラストを簡単に生成

し、絵を描く人々に脅威をもたらしています。私がこれまで毎日絵を描いて積み上げてきた経験や努力も、この新しい技術によって無意味になってしまふのでしょうか。高校への進学が近づく中で、私の未来はますます不透明になり、どう進んでいけば良いのか分からなくなっていました。

そんな時、私が心惹かれたのが、靴職人で六十五歳のマエストロと、シューズデザイナーを夢見る十四歳の夏希の物語でした。マエストロはオーダーメイドシューズの製造・販売を行う百年続く老舗靴店「往来堂」の四代目店主であり、夏希はその孫の少女です。夏希は、レディスシューズのデザイナーに憧れています。しかし、ある日、五代目店主候補であった兄が突然家を出て行ってしまいました。夏希は、デザイナーや靴作りの楽しさを感じている自分と、家業を継ぐ覚悟を持てずに迷っている自分との間で葛藤を抱えていました。

この物語の中で特に私の心に響いたのは、マエストロがオーダーメイドシューズに対して持つ信念と、その意味です。靴業界でも、3Dプリンターを用いて木型を作る技術が普及し始め、製作時間を大幅に短縮できるようになってきています。また、顧客とのやり取りを遠隔で行えるため、店舗に来てもらうことなく靴を仕上げることも可能になっています。これによりオーダーメイドシューズの生産性は飛躍的に向上しましたが、マエストロは今まで

のやり方に固執し、顧客と何度でも会って対話しながら靴を作り上げるプロセスを大切にしています。私はこの姿勢に深く共感しました。

生成AIの登場に戸惑う私にとって、マエストロのやり方は一つの答えを示してくれたように思えます。AIは確かに素晴らしい技術であり、プロの絵描きでなくても、言葉で指示を与えることで驚くほど高品質なイラストを生成できます。しかし、そうしたAIに頼ることが、果たして本当に良いことなのか、果たして本当に良いことなのか、私には、毎日毎日絵を描き続けることで少しずつ上達していく過程が、これからは必要なくなってしまうかもしれないという違和感を覚えていました。しかしマエストロが見せてくれた職人としての信念と、その信念から生まれる靴の力を目の当たりにして、手作業には手作業でしか生み出せない価値があることを改めて感じました。

物語の中で、宗太が「これからは、オーダーメイドシューズみたいに高



私

第48回 校内読書感想文コンクール

優秀賞

『正欲』



207H 平田 怜奈

わたしは「正欲」を手にとった。鴨が下に落ちていくシンプルな表紙が、かえってとても大きな意味を持っていると思われたからである。また、題名のシンプルさにもひかれたからだ。正しい欲と書いてせいよく。存在しないであろう熟語に、人の譲りがたい本能的なものを感ず、人間の惨めさが描かれた小説だと勝手に想像させられ、興味を抱いた。

「正欲」は令和に代わる約一年半前から始まり、新時代に世間の常識が変わることをかすかに望む人物たちが描かれる。小説の舞台が令和ということもあり、今の時代に合ったもので、「この世にはいろんな人がいる」というよく耳にする言葉を痛感した本だった。その中でも私の心にグッときた部分があった。

特殊性癖をもった佐々木が、多様性という言葉に嫌っていたところだ。佐々木は異性にも同性にも性欲を抱かない。水に性欲が湧く。誰かに自分の特殊性癖について話すことを当然のように拒む佐々木はこのような言葉をスマホのメモに記していた。『多様性』という言葉が生んだものの一つに、おめでたさ、があると感じています。(中略)これらは結局、マイノリティの中のマジョリティにしか当てはま

らない言葉であり、話者が想像している「自分と違う」にしか向けられていない言葉です。『わたしには初め難しいと思っていたが、全部読み終えた今なら理解できる気がする。多様性という言葉がうんざりするほど唱えられ、俗にいうLGBTQの人たちは一昔前よりは遥かに過ごしやすい世の中になった。実際に同性愛者を公表して活動している人も一定数いたり、レズやゲイが題材の映画やドラマも制作されたりしている。さらには小学校高学年からLGBTQの方の講義を受け、そんなひともいるのだなと思えるように教育されたZ世代も存在している。それらのおかげによりLGBTQの人は少数派のなかの多数派になった。けれど佐々木のような人は少数派のまま。わたしも正直、水に興奮する人もいらつしやるんですけど簡単に流すことは難しい。わたしはこの佐々木の言葉を読んで、他者を理解しようと思うことに囚われないでいようと思った。佐々木のような異常性癖を持つ者はおそらく隠れて生きているだろう。誰にも理解されたいと思いつつ、理解されなくていいと思いつつ、誰か自分のことについてカミングアウトしてくれなとき、理解はできなかったと

しても、突き放すでもなく、普段と変わらずに振る舞えられる人になりたいと強く思われた。

『皆いつも、何かを確かめるように尋ねては、自分は正しいと、すなわち多数派だと確信させてくれる誰かと笑い合っていた。』自分のことを言われている気がした。少数派を受け入れたいとは思っているのに自分は多数派でいたいし、いなければならぬ気がする。もしわたしが少数派の当事者になったとき、必死に自分を抑え、多数派として生きなければいけない窮屈さと誰にも自分を出せない孤独感への恐怖に耐えられないと思うからだ。けれどもわたしは少数派でいたいときもある。例えば好きな服や音楽、俳優などはあまりほかと被りたくないと思う。それに他者に流されない芯を持っている人はすぐたくましく見えて憧れる。少数派で自分らしさを出して満足気になりたいときと、多数派で自分を押し殺して疎外されたくないときが混同している。センシティブな話題のときは余計に多数派でいたいとわたしは思う。きつとみんなそう思っていると思う。だから相手のデリケートな部分を無理に聞き入れたりしたくないと思つた。わたしだって特殊な嗜好を持つているかもしれないし、十人十色というように人によってさまざまな嗜好があることを知っておきたい。そんな嗜好を共有できるコミュニティが各々にあるような世界になって、孤独を感じる人が減ってほしいと思う。

この本を読んで、正欲をこの世

のみんなが分かちあえるわけでもないのに自分が正しいほうにいたいと思ってしまうことに気づいた。生まれながらに自分は少数派だとわかってきつて過ごす人の気持ちも理解できないまま少数派を理解してあげたいと思つてしまっていた。けれど彼らはきつとほつといてほしいのだと思つた。だからわたしは誰にでも、話している相手が異常性癖を持つていようと、同じように接していきたい。それと同時に多様性を唱える社会に、本当の少数派を受け入れられないじゃないかと少し腹が立った。

『正欲』

朝井リョウ 新潮社



『正欲』は2021年第34回柴田錬三郎賞を受賞しています。図書館に所蔵してあります。

(図書館)



夏休みの課題「読書感想文」として、本校1、2年生が提出した作品をもとに、「校内読書感想文コンクール」を実施しました。その審査結果をご報告いたします。

☆最優秀賞

『空が青いから白をえらんだのです』

204H 村井 愛理

☆優秀賞

『正欲』

207H 平田 怜奈

☆優良賞

『私の職場はサバンナです!』

102H 濱本 麻衣

☆佳作

『ツナグ』103H ゴストロウ 虹海

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』

107H 田村 陽莉

『私の職場はサバンナです!』

207H 森井 瑛太

以上6作品の入賞が決まりました。

なお、校内入賞作品のうち、2作品を石川県の「読書感想文コンクール」に出品しました。校内入賞作品は昨年度より若干減少しましたが、出品した2作品が県の審査において「優良賞」を受賞しました。彼らの素直な言葉で綴られる感想、それぞれの想いに胸を打たれ、中には目頭が熱くなるような作品もありました。近年、若年層の読書率の低下が進んでいます。読書とはまさに「出会い」であり、言葉を知り、読み手に変化を与えてくれるものだと考えます。本校で取り組んでいる朝読書のように、生徒たちには出会いの時間を大切にしてほしいものです。読書のきっかけとして、ぜひ図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(国語科 山下 華果)

中学校 図書委員会

図書委員長という役職

中学3年 柄田 芹斗

図書委員長になったばかりの頃、私は委員長として一年間、委員会を無事に運営していけるかどうか不安でした。実際この一年は、委員として活動していたときよりもはるかに大変で、玉作先生や、前委員長のサポートがなければうまくいってなかったと思います。私は特に会議の進行役をすることの難しさを知りました。他者の意見を引き出すことが大切で、自分の力だけでは何ともならないことも多くありました。

協力してくださった委員の皆さんに感謝すると共に、次に同じような機会を与えられた場合はこの経験を生かし、もっとうまくできるようにしたいです。



進行役って難しい

第1回「読書会」に参加して

中学2年 水野 壮馬

私は今年初めて図書委員に入り、読書会に参加しました。読書会とは、指定された日までに同じ本を読み、感想を話し合うというものです。

結論から言うと、とても楽しく良い会でした。参加者それぞれの意見は自分の解釈を広げてくれる言葉ばかりでした。私はあまり発言しないタイプなのですが、このときだけは楽しく意見を言え、話し合いに入ることができ、こういった意味でも良い会でした。

ただひとつ残念だったのは、図書委員以外の参加者が1名のみだったことです。理由は、アピールが足りなかったこともありですが、本を読むのが面倒だと感じている人が多い、ということもあると思います。しかし、そういう人にこそ、参加してほしいと思います。実は私も本を読むのは苦手だったのですが、参加したことによって本が好きになったからです。読書会は「本好き」になるチャンスなので、本当に参加してほしいです。

第2回「読書会」に参加して

中学1年 荒地 美柚

今年度二回目の読書会では、初めて童話に挑戦しました。図書委員長を中心に感想や意見を出し合い、学びが深まりました。人は自分の樂のために簡単に他者をだましてし

まうということや、一人のために仲間が一丸となつて助けようとする姿など、私たちが知っていなければいけないこと、見習わなければいけないことなどを改めて思う会になりました。



他の人の意見が新鮮でした

第一回テキスト 関口 尚著

『マジック・アワー』

第二回テキスト 宮沢賢治著

『オツベルと象』

初めて「読書会」に参加して

中学3年 南 理駆

この選書会の感想を一言で表すと、「面白い」だ。ふざけた面白おかしさではなく、ふだんあまり交流を持たない他学年の人たちが「これ買



どの本を正面にする？

★実施日 10月11日
★参加生徒数 20名
★場所 うつのみや香林坊店
★入った冊数 50冊
図書館入り口に、選書会が入った本のコーナーも作りました。どうぞ見に行ってください。



選ぶの楽しいな

います」と、いろんな本を見せてくれ、本の種類に感服するなどして、視野が広がっていく面白さがあった。僕は、『本を読んだことがない32歳がはじめて本を読む』という本を入れてもらった。図書館での貸し出しが始まった日にすぐに借りに行き読んだが、とても興味深い内容だった。気になった人にはぜひ読んでいただきたい。

Book fes. 2025

中学3年 福田 康典

ばくにとつて、初めて企画する側で参加したブックフェス。放課後残って完成させた掲示物は、「達成感」という言葉を表したような物だと自分では感じた。しかし、ブックフェス期間中の貸し出し冊数は、中1が178冊だったものの、中2が9冊、中3は7冊しかなかった。テスト勉強に追われて読書をする時間が作れない人が多かったのではないかと推測する。アピール不足もあったかもしれない。でも、この活動自体は、けつして無駄なことではないと僕は思っている。

クラス図書を選んで

中学1年 平井 由乃



クイズ作るよ〜